

平成20年11月

京都市こどもの感染症



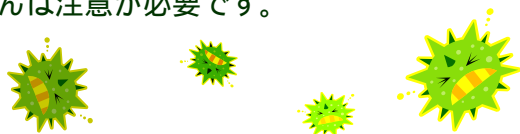
去年の今ごろ、京都市で多かった感染症

順位	病気の名前	特徴, 予防法など
1位	感染性胃腸炎	発熱, 下痢, 嘔吐などが主な症状です。予防は, 調理前, 食事前, トイレの後などの手洗いが基本となります。下痢や嘔吐が続くと脱水症になりやすいので, 水分補給をこまめに行いましょう。
2位	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	のどの痛みと発熱で始まり, 赤い発しんが全身に広がります。3~4日すると, 舌がいちごのように赤くなってぶつぶつ(いちご舌)になるのが特徴で, 4~5歳のこどもに多い感染症です。
3位	水痘(水ぼうそう)	全身に発しんがでます。感染力が強く, 肺炎・脳炎・髄膜炎などの合併症を併発することもあります。発病3日以内に抗ウイルス薬を服用することで, 症状の軽減が期待できます。予防接種は任意(1歳以上で, 1回接種)ですが, 集団生活をする場合は, 接種をおすすめします。

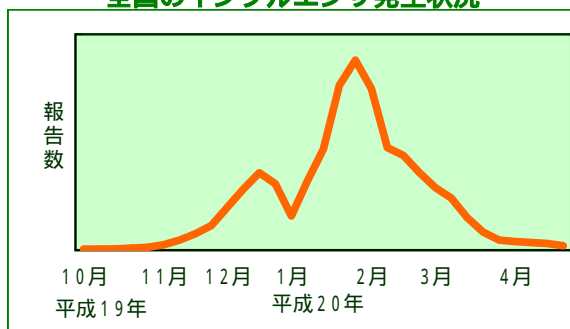
インフルエンザの季節がやってきます

インフルエンザは, 毎年12月から3月ごろにかけて流行します。

インフルエンザ脳症, 気管支炎, 肺炎, 中耳炎などの合併症を引き起こすことがあり, 特にお子さんは注意が必要です。



全国のインフルエンザ発生状況



予防接種を受けましょう

インフルエンザのウイルスは, 毎年のように変化しながら流行を繰り返すため, 予防接種は毎年受ける必要があります。

接種を受けても, すぐには効果が現れませんので, 流行が始まる前の早めの接種が必要です。

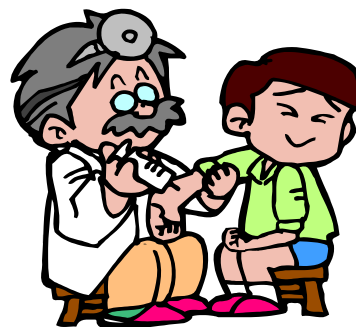
家族が予防接種を受けることも大切です

家庭内で感染が広がることを避けるためにも, 特に小さなお子さんのおられるご家族の方は, 予防接種を受けることをおすすめします。

予防接種を受ける回数と時期

13歳未満は2回, 13歳以上は1回又は2回の接種が基本とされています。(65歳以上の人は, 1回接種で十分効果があると報告されています。)

接種から効力が現れるまでの期間や流行の時期, また, 効力の持続期間などを考えると, インフルエンザワクチンの接種は11月はじめに1回目を受け, 3~4週間あけて12月に2回目の接種を受けることが効果的です。



気になる症状があるときは, かかりつけの医療機関に相談しましょう

発行 京都市保健福祉局 保健医療課 / 衛生公害研究所
(本号及びバックナンバーは衛生公害研究所のホームページからも御覧いただけます。)